

	ゼミナール名	ゼミナール II (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（行動科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。</li> <li>2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>前期では、まず社会学に関するテキストを読み、社会学の対象と方法を理解するとともに、行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。
履修条件	<p>「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得済みであること、または教職課程の所定の科目を修得し、次年度に教育実習を行う予定であることが望ましい。なお、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認めない。</p> <p>・今年度中に「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること(または修得済みであること)</p> <p><b>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認めない。</b></p>
テキスト	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会、2001。
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告40%、平常点40%、期末試験20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（社会学とは何か）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（社会学の方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	問題意識の明確化	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	研究テーマの設定	第21回	文献講読⑪（エスニシティと国家）
第6回	研究テーマの報告・グルーピング	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	文献講読③（自我とコミュニケーション）	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	文献講読④（集団と組織）	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（文化と社会化）	第25回	文献講読⑫（大衆社会と政治）
第10回	文献講読⑥（同調と逸脱）	第26回	文献講読⑬（メディアと大衆）
第11回	文献講読⑦（家族と社会）	第27回	文献講読⑭（現代社会と宗教）
第12回	文献講読⑧（教育と市民社会）	第28回	文献講読⑮（現代社会の諸相）
第13回	文献講読⑨（職業と階層）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（地域社会と生活）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（民法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	鬼塚 隆政		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	火曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	講義で習得した民法の知識を、本ゼミナールの判例研究により、反対説も含めた深い理解へと高めることで、具体的な問題の解決策を考えることができる実践的レベルへと高める。
ゼミの到達目標	個別の判例について、事例を正確に理解し法的問題点を整理、説明できる。 その際、反対説の指摘する問題点とこれに対する判例の考え方も理解する。 公務員試験、各種法律系試験等で問われる判例の考え方を確実に身に付ける。
ゼミの概要	判例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行います。 現時点では民法総則と物権法以外履修していないはずなので、本ゼミナールでは主に民法総則と物権法にかかる判例の研究を行います。もちろん、その他の分野への挑戦も歓迎します。 適宜、関連する法分野の知識確認を行います。 担当教員との対話を中心としてゼミナールを進行しますが、当然、報告担当者以外の参加者にも発言を求め、全員でディスカッションを行います。 毎回範囲となる部分を予習し、疑問点を授業で発言してもらいます。 本ゼミナールでは、知識確認のため適宜ミニテストを実施します。 理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。
授業時間外の学習	ゼミナールで扱う範囲について予習して疑問点等を抽出し、ゼミナールで議論する準備をする。 (1.5時間)。
履修条件	原則として、民法総則、物権法の単位を取得していること。
テキスト	特に指定しません。 各人の所有するテキストで結構です。
参考文献・資料	内田貴他「民法判例集 総則・物権[第2版]」有斐閣 内田貴他「民法判例集 担保物権・債権総論[第3版]」有斐閣 我妻榮他「民法1総則・物権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法2債権法 第4版」勁草書房 我妻榮他「民法3親族法・相続法 第4版」勁草書房
成績評価の方法	ゼミナール内での議論への参加状況(70%)と試験結果(30%)を総合的に評価します。自分の発表する回を欠席した場合は、大幅に減点します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	講義の時間以外いつでも可 なお、常時国家試験等センターにいます。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。特に、公務員試験、各種法律系試験等を考えている方の参加を歓迎します。 公務員試験、各種法律系試験等を目指す方にとって民法は、大変重要です。 本ゼミナールと大学の講義との連携で、効率的により深く確実な知識の定着を目指しましょう。 理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育	第17回	物権・判例検討・ディスカッション⑥
第2回	資料の調べ方、担当決め。	第18回	物権・判例検討・ディスカッション⑦
第3回	民法総則・判例検討・ディスカッション①	第19回	物権・判例検討・ディスカッション⑧
第4回	民法総則・判例検討・ディスカッション②	第20回	物権・判例検討・ディスカッション⑨
第5回	民法総則・判例検討・ディスカッション③	第21回	担保物権・判例検討・ディスカッション① (ミニテスト)
第6回	民法総則・判例検討・ディスカッション④ (ミニテスト)	第22回	担保物権・判例検討・ディスカッション②
第7回	民法総則・判例検討・ディスカッション⑤	第23回	担保物権・判例検討・ディスカッション③
第8回	民法総則・判例検討・ディスカッション⑥	第24回	担保物権・判例検討・ディスカッション④
第9回	民法総則・判例検討・ディスカッション⑦	第25回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑤
第10回	民法総則・判例検討・ディスカッション⑧	第26回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑥ (ミニテスト)
第11回	物権・判例検討・ディスカッション① (ミニテスト)	第27回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑦
第12回	物権・判例検討・ディスカッション②	第28回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑧
第13回	物権・判例検討・ディスカッション③	第29回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑨
第14回	物権・判例検討・ディスカッション④ (ミニテスト)	第30回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑩
第15回	物権・判例検討・ディスカッション⑤、まとめ	第31回	担保物権・判例検討・ディスカッション⑪ まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（公共政策と国際協力ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	木原 隆司		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>国内では、<b>政府が策定する「公共政策」</b>が本当に効果のあるものなのかの議論が尽きず、EBPM(証拠に基づく政策策定)が強く訴えられています。またSDGs(持続可能な開発目標)等、国際的に協力して解決すべき課題が山積している今日、「<b>国際的な制度・政策調整(国際公共政策)</b>」や「<b>開発途上国への協力・支援(開発協力)</b>」の重要性が増してきています。</p> <p>本ゼミでは、担当教員の行政・国際交渉経験をも踏まえ、テキストや国際機関等の資料の「輪読」、文献調査、現地調査等により、公共政策や開発途上国・援助政策等に関する理論と実態を学び、<b>開発協力を含む公共政策の在り方</b>について検討していく予定です。</p>
ゼミの到達目標	<p>このゼミの目標は、公共政策や開発途上国・援助政策に関する基礎的な理論と実態を学ぶことにより、論理と実証に裏付けられた公共政策の策定や国際協力に参画できるような基礎的な知識と能力を涵養し、「<b>協調できる強靱な社会人・国際人</b>」となる<b>素養</b>を身に付けることにあります。そのため、3年次のゼミでは、身に付けた経済学等の知識と分析手法を活用して、<b>具体的な「公共政策の課題」</b>について<b>分析・検討・改善提案(=「研究」)</b>を行います。その上で、研究成果を「<b>ゼミナール研究発表大会</b>」や「<b>秋田県即戦力事業成果報告会</b>」で発表します(特に、「<b>分析力</b>」、「<b>論理構成力</b>」、「<b>プレゼン(表現)力</b>」を涵養します)</p>
ゼミの概要	<p>研究テーマごとのグループに分かれて、「<b>グループ研究</b>」を進めます。研究テーマは公共政策や国際協力に関連することであれば何でもOKです(但しグループの一つは「<b>秋田県の財政問題</b>」についてのグループとします。秋田県の「<b>即戦力事業</b>」への提案にしましょう!))。</p> <p>(学生と相談の上、テキスト等を用いて、「<b>計量経済学</b>」や「<b>経済数学</b>」の<b>補強</b>をしていきます)</p>
授業時間外の学習	<p>可能であれば(夏休みに)「<b>国際公共政策の現場</b>」を訪問したいと思います(東京にある「<b>世界銀行</b>」などの<b>国際機関日本事務所</b>など)</p> <p>(前任校では更に3年ゼミ生と9月頃に1週間程度の「<b>東南アジア開発援助視察調査</b>」を行い、<b>現地の大使館、JICA事務所、国際機関の事務所と開発現場</b>を訪問してきました)</p>
履修条件	<p>「<b>協調できる強靱な社会人・国際人</b>」を目指して、<b>ゼミ活動に「真面目」に取り組む学生(真面目に取り組めない人は遠慮してください)</b></p>
テキスト	<p>学生と相談の上、下記の参考文献や経済学の文献をテキストとして用いることがあります。</p>
参考文献・資料	<p>西村晃(2012)『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』日本経済評論社 山本拓・竹内明香(2024)『入門 計量経済学 第2版』新世社</p>
成績評価の方法	<p>ゼミにおける取組・発表内容・プレゼン等を総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週火曜日・木曜日 10:40~12:10</p>
成績評価基準	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>担当教員は、財務省・外務省・経済企画庁等の中央官庁の参事官・部長・課長等、米州開発銀行(IDB)・アジア開発銀行(ADB)国際機関職員やWTO(世界貿易機関)担当の一等書記官などの職務を通じて、長崎大学・九州大学・獨協大学の教授として、<b>経済学を政策に役立て、学</b></p>

生が経済学を武器に「協調できる強靱な国際人」となるよう努めてきました。皆さんも、経済学や公共政策の知識を仕事や世の中の分析に役立てられる Cool な (カッコいい) 社会人・国際人になりませんか？

授業計画 (各回のゼミの最後に、各班から簡単にその日に行った事項を報告してもらいます)			
第1回	前期ガイダンス・班分けと「研究倫理教育」	第17回	後期ガイダンス・論文の書き方指導
第2回	各班の研究内容検討 (1)	第18回	研究成果の作成 (論文・PPT) (1)
第3回	各班の研究内容検討 (2)	第19回	研究成果の作成 (論文・PPT) (2)
第4回	各班の研究内容 (仮) 決定・論題発表	第20回	研究成果の作成 (論文・PPT) (3)
第5回	各班の研究計画策定・研究開始 (1)	第21回	研究成果の作成 (論文・PPT) (4)
第6回	各班の研究計画策定・研究開始 (2)	第22回	研究成果の作成 (論文・PPT) (5)
第7回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (1)	第23回	研究成果の作成 (論文・PPT) (6)
第8回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (2)	第24回	ゼミ内発表会 (1)
第9回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (3)	第25回	ゼミ内発表会 (2)
第10回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (4)	第26回	ゼミ内発表会 (3)
第11回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (5)	第27回	発表大会・報告会に向けての準備
第12回	文献調査・分析手法の検討・分析等 (6)	第28回	発表大会・報告会に向けての準備
第13回	研究の中間報告会 (1)	第29回	発表大会・報告会に向けての準備
第14回	研究の中間報告会 (2)	第30回	発表大会・報告会に向けての準備
第15回	研究の中間報告会 (3)	第31回	発表大会・報告会に向けての準備
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会政策ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	木村 澄（きむら きよし）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「人生の目的」とは何か？ その目的をいかにして達成するか？
ゼミの到達目標	<p>1. 人生100年時代の「幸せを創造する生き方」を考える。  幸福を決める3つの要因とは？ ①人は幸福度のうち50%が遺伝によって設定されている。②生活環境や状況による違いは10%程度。③幸福になるための40%は日々の意図的な行動にある。何かに没頭している状態を「フロー」という。幸福な人生はフローによって創られる。</p> <p>2. 人生100年時代に「新しい働き方」を考える。  ①自分が興味をいだける分野で「高度な専門技能」を習得すること、②「人間関係の資本」を育むこと、③消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、「質の高い経験」を大切にすること。  創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができる。  そのような新しい生き方を理解したうえで、ゼミ研究活動を進める。そして、その成果をみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とする。</p>
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得るか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会学的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察する。
授業時間外の学習	興味ある研究テーマを考え、関連する研究資料を収集し読み込む。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【研究活動（40%）、前期試験（15%）、後期試験（15%）、参加状況（報告、質疑応答など：30%）】  上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目（13:00～14:30）・木曜日3時間目（13:00～14:30） ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立ちます。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。食事会（焼肉）で交流を図りましょう！

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	悪について：人間は狼か羊か	第18回	「VIA 強み診断テスト」
第3回	ネクロフィリア、ナルシズム、近親相姦的固着	第19回	WELL-BEING 理論：持続的幸福感
第4回	人間の本性とは	第20回	①ポジティブ感情、②エンゲージメント、③意味・意義、④達成、⑤関係性
第5回	愛について：対人間的合一	第21回	フロー理論：生きるとは
第6回	愛する能力の特性	第22回	仕事についての矛盾
第7回	人間はなぜ罪を犯すのか	第23回	幸福を決める3つの要因
第8回	生来犯罪人説、アノミー理論①、社会解体理論	第24回	「オックスフォード幸福度調査」
第9回	文化葛藤理論、分化的接触理論、アノミー理論②	第25回	3ステージの人生からマルチステージの人生へ
第10回	非行サブカルチャー理論、分化的接触構造理論	第26回	時間という贈り物、無形資産の形成
第11回	非行漂流理論、ラベリング理論、ボンド理論	第27回	働き方のシフト：未来を形成する要因
第12回	幸せの公式：ずっと幸せでいるために必要なこと	第28回	①ジェネラリストから連続スペシャリストへ
第13回	幸福のサーモスタット、快樂の踏み車	第29回	②孤独な競争から協力して起こすイノベーション
第14回	お金で幸せは買えない	第30回	③大量消費から情熱を傾けられる経験へ
第15回	長続きする幸せをもたらす自発的要因	第31回	より良い未来を築くには
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	3年生は各自が目指す就職のための資格取得を目指します。 例えば宅建士、FP資格、簿記2級、証券外務員、税理士科目合格等
ゼミの到達目標	各自が自分の希望する仕事に就くための資格取得
ゼミの概要	各人が目指す資格のための勉強をしてもらう。
授業時間外の学 習	各自、問題演習並びにわからないところは研究室に聞きに来る。
履修条件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テキスト	各自に指示する。
参考文献・資料	必要に応じて紹介する。
成績評価の方法	授業への参加状況(報告、質疑応答など:30%)・学習態度(30%)・成績(40%)等で総合評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4時間目
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生への メッセージ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。

授業計画			
第1回	研究倫理教育 宅建士資格取得	第17回	都市計画法① 都市計画・建築制限・開発許可の要否
第2回	民法等① 制限行為能力者制度・意思表示・債務不履行等	第18回	都市計画法② 開発許可の申請・総合
第3回	民法等② 手付・売主の担保責任・危険負担等	第19回	建築基準法① 建築確認・総合・単体規定
第4回	民法等③ 代理・時効・債権譲渡・連帯債務等	第20回	建築基準法② 用途制限・道路・容積率
第5回	民法等④ 保証と連帯保証・委任・請負等	第21回	建築基準法③ 斜線制限・日影制限・用途制限
第6回	民法等⑤ 不法行為・物権変動の対抗要件・抵当権・相続等	第22回	国土利用計画法① 事後届出
第7回	不動産登記法	第23回	国土利用計画法② 事後事前届出
第8回	借地借家法	第24回	農地法 許可・許可届出
第9回	建物区分所有法	第25回	土地区画整理法① 施行者・行為制限・事業計画
第10回	宅建業法① 意味・免許基準・主任者登録	第26回	土地区画整理法② 組合・仮換地・換地処分
第11回	宅建業法② 取引主任者の申請手続き・総合・営業保証金	第27回	宅地造成等規制法① 規制区域
第12回	宅建業法③ 弁済業務保証金・媒介契約・	第28回	宅地造成等規制法② 防災区域
第13回	宅建業法④ 重要事項の説明・37条書面	第29回	その他関連知識① 不動産の鑑定評価
第14回	宅建業法⑤ 従業者名簿・事務所と標識・事務所の規制等	第30回	その他関連知識② 地価公示・不動産取得税・固定資産税
第15回	宅建業法⑥ 広告の規制・取引態様の明示義務等	第31回	その他関連知識③ 譲渡所得・印紙税・登録免許税等
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。</li> <li>8 安全保障に関し、選択したテーマについて意見を述べ、解説することができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は安全保障体制や安全保障政策についてゼミナールⅠで研究した事項をもとに解説するとともに、学生が選択したテーマに沿って研究します。後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> <li>・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。</li> </ul> <p>（予習2時間程度、復習2時間程度）</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～⑤の条件をすべて満たすこと。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生生活入門Ⅰ・Ⅱ、または総合科目Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。</li> <li>② 国際関係論、安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学Ⅰ、行政学Ⅱ、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、観光法規、観光社会学、世界政治学Ⅰ、世界政治学Ⅱ、時事経済入門、国際法のうち少なくとも3科目の単位を修得済みであること。</li> <li>③ 国際関係論特別講義を同時履修すること。</li> <li>④ 第1回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第1回ゼミナール時に配布する。）。</li> <li>⑤ 履修登録にあたっては、第1回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 安全保障論ゼミナールⅠの単位を修得済みであることが望ましい。</li> <li>3 国際人道法、防災学概論、現代政治論を同時履修することが望ましい。</li> <li>4 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。</li> </ol>

テ キ ス ト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書（令和5年版）、外交青書（令和5年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14：40～16：10 水曜日 14：40～16：10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。 早期に研究発表・レポート作成に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス (研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について) 安全保障のまとめ (ゼミナールⅠのふりかえり)	第17回	レポート作成準備・テーマの確認・研究の方向性
第2回	国家・領域の問題とは	第18回	文献検索・中間指導 (グループ1)
第3回	我が国の領土問題	第19回	文献検索・中間指導 (グループ2)
第4回	防衛政策とは	第20回	文献検索・中間指導 (グループ3)
第5回	我が国の防衛政策	第21回	中間報告 (グループ1)
第6回	防衛と治安維持	第22回	中間報告 (グループ2)
第7回	広義の安全保障①	第23回	中間報告 (グループ3)
第8回	広義の安全保障②	第24回	個別指導①
第9回	安全保障と自治体の役割	第25回	個別指導②
第10回	武力攻撃事態とその対処	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護法	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の動き	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	特別講義① (ゲストスピーカー)
第14回	国際平和協力活動①	第30回	特別講義② (ゲストスピーカー)
第15回	国際平和協力活動②	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（心理学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	瀬戸 泰		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>同じ経験をして、「楽しい」と感じたり「つまらない」と感じたり、人によって感じ方が異なるのはなぜでしょうか。また、幼い頃の親子関係や成育歴はどのように心に影響を及ぼすのでしょうか。このように、心理学は私たちの生活と密接に結びついている「心」と「行動」の働きや法則性を検証していく学問です。本ゼミナールでは、心理学に関する代表的な理論等を学ぶとともに、それをベースとして、自らの研究テーマの方向性等を検討していくことを目的とします。</p>
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の全体像を理解し、それらを通して自らの心や社会的な現象に対する洞察が行えること</li> <li>・心理学に限らず、分かりやすい説明が行えるようになるための素養を身につけること</li> <li>・他者への気配りや思いやりの心と行動を育むこと</li> </ul>
ゼミの概要	<p>基本的に毎回、異なる心理学のテーマについて講義や文献講読を通じて理論的な内容を学んだ上で、意見交換やグループワーク、事例検討等を行いたいと思います。また、後半では卒業研究に向けた研究の進め方を学びつつ、各自でテーマ検討などに着手し、発表を行っていきます。</p>
授業時間外の学習	<p>学んだことを日常生活の中で意識的に当てはめて考察・活用するとともに、自身の興味のある研究テーマの検討を進めてください。</p>
履修条件	<p>心理学に関する知識の多い・少ないは問いませんが、「心理学に興味がある」「ルールを守れる」方の履修を歓迎します。  <u>*心理学は「占いやゲーム」のようなものではありませんので、「思っていたものと違う…」とならないよう、その点を予めご理解ください。また、心理学に興味がない(少ない)場合はゼミ参加が苦痛になると考えられますので、自身の興味関心を基準に受講を検討してください。</u></p>
テキスト	<p>毎回、講義用レジュメやテキストの写しを配布します。</p>
参考文献・資料	<p>必要に応じて、授業中に適宜お知らせします。</p>
成績評価の方法	<p>授業平常点（コメントシート・授業態度等）60%、発表内容等40%          ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日もしくは火曜日の10:30～12:00          ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp</p>
成績評価基準	<p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>現代は「心の時代」とも言われるように、悩みやストレスをどう和らげていくか、また、ビジネスや行政に心理学をどう活かしていくかなど「心理学 × 様々な領域」に対する注目が集まっています。また、学んだ知識は自身の心のケアや対人面に活かしていけるかもしれません。身近だけれども幅広く奥深い「心理学の世界」を一緒に冒険してみませんか。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション (ゼミの進め方、研究倫理)	第17回	研究の進め方 (研究の流れ、文献検索)
第2回	心理学の概要 (心理学とは、様々な心理学)	第18回	文献講読 (実際に文献を読んでもみる)
第3回	深層心理学	第19回	パワーポイントの使い方・活用方法
第4回	行動主義心理学	第20回	興味のあるテーマの文献に関する発表①
第5回	感覚・知覚・認知心理学	第21回	興味のあるテーマの文献に関する発表②
第6回	健康心理学①	第22回	興味のあるテーマの文献に関する発表③
第7回	健康心理学②	第23回	心理療法を学ぶ① (来談者中心療法)
第8回	パーソナリティ心理学	第24回	心理療法を学ぶ② (精神分析、交流分析)
第9回	投影法の実践	第25回	心理療法を学ぶ③ (認知療法、認知行動療法)
第10回	社会心理学	第26回	アセスメントと代表的な精神疾患
第11回	発達心理学	第27回	ケース検討・ディスカッション (いじめの事例)
第12回	教育・学校心理学	第28回	ケース検討・ディスカッション (不登校の事例)
第13回	自己開示とコミュニケーション	第29回	研究テーマの検討・発表①
第14回	自己分析	第30回	研究テーマの検討・発表②
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール II (感性データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	津谷 篤		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	感性工学でよく用いられる解析手法を用いて対象としたものの解析を行い、その結果を世の中に役立てる方法を提案する。
ゼミの到達目標	データサイエンスの中でも主に感性工学で用いられる解析手法（主成分分析、対応分析、ネットワーク分析、テキストマイニングなど）を用い、様々な物事のイメージや性質を定量評価できるようになる。そしてその結果の応用法を提案できるようになる。
ゼミの概要	<p>感性工学は、人間の感性という説明しにくいものをアンケートや多変量解析などを用いて数値化し、それをものづくりやマーケティングに活かす学問とも言える「理系と文系の融合領域」です。感性工学でよく用いられる手法を用い、ファッション、音楽、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、観光、食品など、様々なものを解析してみましょう。そしてその結果を世の中への貢献に役立たせる方法を考えましょう。（とはいうものの学問で普通に研究対象となるものにも使用可）。</p> <p>1年間の間に次のような流れを解析方法を変えて何回か繰り返します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解析のPCでの計算方法を教わる</li> <li>2. サンプルデータで解析してみる</li> <li>3. その解析法が用いられた研究の調査</li> <li>4. 各々選んだ研究対象に対してその解析を行ってみる</li> <li>5. 解析結果とその解釈、その役立たせ方をゼミメンバーに紹介する</li> </ol> <p>2年生時、3年生時では基本同じような繰り返しで行っていきます。つまり2年間続けてゼミに参加した場合、より多くの解析を行ったこととなります。4年生時にはこれまで行った解析結果の中で良かった内容を卒業研究テーマとして選択すればいいでしょう。（今年度は4年生向けのゼミは開講しません）。いくつか良い結果が出たならぜひ学会発表に挑戦してみましょう。</p>
授業時間外の学習	<p>普段から研究テーマさがしをしてほしいです。</p> <p>解析結果の紹介時にはスライドなどの資料を作成してもらいます。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコンを持参する</li> <li>・「データサイエンス基礎」「ビッグデータとAI」を受講することが好ましい</li> </ul>
テキスト	じっくり学びたい解析法に出会ったときはその都度参考にできるものを紹介します。
参考文献・資料	こちらで資料を用意します。
成績評価の方法	<p>定期試験(20%),ゼミ活動への参加状況(30%),ゼミ内・学内・学外での発表状況(50%) (学会発表高得点)</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	金曜日 13:00~17:10    tsuya@nau.ac.jp にご連絡いただけると他の日時も対応可能です。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	感性工学は普通の理系学生や普通の文系学生がたどり着けないいわば「文系であることを活かしたデータサイエンス」であるといえます。その学びを得て、就職活動などを行う際に「私は文系の大学でデータサイエンスの研究を行っていました。」と堂々と言えるようになりましょう。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と感性工学研究の紹介	第17回	QGIS を実データに対して使ってみる
第2回	対応分析のやり方の説明	第18回	テキストマイニングのやり方の説明
第3回	サンプルに対して対応分析を行ってみる	第19回	サンプルに対してテキストマイニングを行う
第4回	対応分析が用いられた研究の調査①	第20回	テキストマイニングが用いられた研究の調査①
第5回	対応分析が用いられた研究の調査②	第21回	テキストマイニングが用いられた研究の調査②
第6回	対応分析が用いられた研究の調査③	第22回	テキストマイニングが用いられた研究の調査③
第7回	各々選んだ研究対象に対し対応分析してみる	第23回	各々選んだ研究対象に対しテキストマイニング
第8回	対応分析結果の解釈および応用法をゼミ内で発表	第24回	テキストマイニング結果の解釈および応用法発表
第9回	ネットワーク分析のやり方の説明	第25回	主成分分析のやり方の説明
第10回	サンプルに対してネットワーク分析を行ってみる	第26回	サンプルに対して主成分分析を行ってみる
第11回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査①	第27回	主成分分析が用いられた研究の調査①
第12回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査②	第28回	主成分分析が用いられた研究の調査②
第13回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査③	第29回	主成分分析が用いられた研究の調査③
第14回	各々選んだ研究対象に対しネットワーク分析	第30回	各々選んだ研究対象に対し主成分分析してみる
第15回	ネットワーク分析結果の解釈および応用法を発表	第31回	主成分分析結果の解釈および応用法をゼミ内発表
第16回	地理情報システムソフト QGIS の使い方の説明	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ【行政学・政治学・公共政策論・地方自治論】		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input checked="" type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じ認識し、行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文の執筆およびプレゼンテーションに取り組むこと。</p>
ゼミの概要	<p>▶ テキストあるいはレジュメを輪読する形式とします。また、各自のゼミ論文に向けたテーマ設定や進捗について報告し、話し合う場としましょう。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。</p>
授業時間外の学習	<p>▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。</p>
履修条件	<p>▶ ゼミナールⅠを履修していない場合には、第1回(お試し)ゼミに出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。 ▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」「公共政策論」「地方創生論」「都市政策論」を未履修の場合、できるだけ履修しましょう。</p>
テキスト	<p>▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定</p>
参考文献・資料	<p>『質的比較分析(QCA)』パトリック・A・メロ著、東伸一・横山斉理著(千倉書房、2023) 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根(ミネルヴァ書房、2022) 『行政学[新版]』(曾我謙悟、有斐閣アルマ、2022) 『はじめての行政学[新版]』(伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣スタジオ、2022) 『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編(文真堂、2021) 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編(慈学社、2021) 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン(成文堂、2021) 『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房、2021) 『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室、2021) 『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版、2021) 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann(Springer VS, 2020) 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis,』Paul Pierson(Princeton University Press, 2004) 『行政学[新版]』真淵勝(有斐閣、2020) 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉(一藝社、2019) 『日本の地方政府』曾我謙悟(中公新書、2019) 『行政学講義』金井利之(ちくま新書、2018) 『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編(成文堂、2016) 『行政学』原田久(法律文化社、2016) 『行政学[第2版]』外山公美編(弘文堂、2016)</p>

	『比較政治学入門』岩崎正洋（勁草書房、2015） 『政策過程の理論分析』岩崎正洋編（三和書籍、2012） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis』 Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%）</li> <li>➤ レポートあるいは試験（35%）</li> </ul> ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限および木曜日 4限
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し（「地方創生論」「都市政策論」参照）、</li> <li>➤ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく（「公共政策論」参照）、</li> <li>➤ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である（「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」参照）、</li> </ul> という認識を涵養し共有できる場にしましょう。

授業計画			
第1回	オリエンテーション： 研究倫理教育（全学共通テーマ）	第17回	インターミッション：研究活動における不正行為・不適切行為の防止について（全学共通テーマ）
第2回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識① 秋田市「まちづくり」の岐路①	第18回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備①
第3回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識② 秋田市「まちづくり」の岐路②	第19回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備②
第4回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識③ 秋田市「まちづくり」の岐路③	第20回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備③
第5回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識④ 政党・議会政治と選挙①	第21回	ゼミ論文・卒業プレゼンテーションおよび／あるいは公務員・資格試験等への準備④
第6回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑤ 政党・議会政治と選挙②	第22回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション①
第7回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑥ 政党・議会政治と選挙③	第23回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション②
第8回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑦ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革①	第24回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション③
第9回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑧ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革②	第25回	ゼミ論・進路選択等現況のプレゼンテーション④
第10回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑨ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革③	第26回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議①
第11回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション①	第27回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議②
第12回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション②	第28回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議③
第13回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション③	第29回	各ゼミ論等の枠組みの構築と討議④
第14回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション④	第30回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望①
第15回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション⑤	第31回	ゼミナールⅡのまとめとⅢへの展望②
第16回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評	第32回	定期試験あるいはゼミ論等進捗についての講評

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（政治学・行政学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	中村逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期から後期の途中までは、政治学・行政学について幅広く学ぶため、次の二冊をテキストとして読み進める予定です。</p> <p>(a) 宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』</p> <p>(b) 三浦まり『さらば、男性政治』（または、水島治郎『ポピュリズムとは何か——民主主義の敵か、改革の希望か』）</p> <p>ゼミは、毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形で進めます。<u>あまり負担が重くならないように、少しずつ読み進めていくつもりですので、ご安心ください。</u>また、テキストは一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期の途中からは、個人研究に取り組んでもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、図書館やウェブを通じて調べておくこと（2時間）。
履修条件	特にありません。なおガイダンスに出席できない場合は、事前に、7階の研究室に一度お越しください。
テキスト	宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』岩波新書、2017年（840円）。 三浦まり『さらば、男性政治』岩波新書、2023年（980円）。
参考文献・資料	ゼミの際にその都度紹介します。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）とレポート（40%）によって評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) この学年は、昨年度はゼミを開講していませんでしたので、どなたでも大歓迎です！</p> <p>(2) ゼミについて確認しておきたい点などあれば、気軽に7階の研究室にお越しください。</p> <p>(3) 例年、一人で参加される学生が多く、友達と一緒になくても気にならないゼミだと思います。</p> <p>(4) 日頃はあまり本を読まないけれど、大学に入ったのだから本を読んで他の学生と話し合ってみたいと思っている人には、特に向いているかもしれません。</p> <p>(5) 公務員試験の勉強についても助言ができると思います。毎年合格者も出ています。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	研究倫理など	第18回	男性ばかりの政治——権力の座に女性はいない （『さらば、男性政治』を読み、話し合う）
第3回	個人面談、ゼミ内の役割分担	第19回	ジェンダー平等後進国が作り出した生きづらさ ——深刻化する女性の貧困（『さらば、男性政治』）
第4回	日本型生活保障と排除の構造 （『共生保障』を読み、話し合う）	第20回	映像視聴
第5回	「強い個人」の終焉——病気、障害、老い （『共生保障』）	第21回	女性を排除する日本の政治風土と選挙文化 ——飲み会を断らない女（『さらば、男性政治』）
第6回	共生保障の基本的な考え方—「支える側」を支え 直す、「支えられる側」の参加拡大（『共生保障』）	第22回	女性に待ち受ける困難——コロナ禍は女性リーダ ーのイメージを変えるか（『さらば、男性政治』）
第7回	公務員試験の説明など	第23回	個人研究についての説明、個人面談
第8回	地域における共生保障——藤里町社会保障協議 会、ふるさとの会、生活クラブ風の村（『共生保障』）	第24回	ミソジニーとどう闘うか——女性を罰する （『さらば、男性政治』）
第9回	ユニバーサル就労——就労、居住、所得保障 （『共生保障』）	第25回	なぜクオータが必要か——世界に広がるクオータ （『さらば、男性政治』）
第10回	新しい家族的コミュニティ、小さな福祉拠点 （『共生保障』）	第26回	ジェンダー平等で多様性のある政治に向けて—— 「女」であることの意味（『さらば、男性政治』）
第11回	SPI の説明、面談など	第27回	個人研究——目次
第12回	共生保障と社会保障改革、自治体制度の機能不全 （『共生保障』）	第28回	個人研究——参考文献
第13回	生活困窮者の自立支援 （『共生保障』）	第29回	個人研究——進捗状況のフォロー
第14回	共生という価値と政治 （『共生保障』）	第30回	個人研究の発表①
第15回	公務員試験、SPI の勉強の仕方	第31回	個人研究の発表②
第16回	レポート	第32回	レポート

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（人間科学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間とふるまいー経済活動をする「人間」とはー
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間のふるまい／行為についての基礎的内容、基本的概念を他者に説明することができ、併せて、その学説や思想を自己の人格形成に努めるための必要な道具立てとすることができる。</li> <li>社会生活の中で、どのようにふるまえばよいのか、という行為の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>人間のふるまい、あるいは人間の行為に関わる諸問題について考えていく。一例としては、人間のふるまいを「効用」という視点からとらえ、経済学に結び付けて考えた理論もあるように、われわれの経済活動の源には、人間の「ふるまい」がある。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミナールⅡでは、その中でも、「何をなすべきなのか」という人間のふるまい、あるいは自己の在り方・生き方について、西洋の先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、考えていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているため、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくこと。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のふるまい／行為」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。</li> <li>本ゼミナールでは、研究発表大会などに出場することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。</li> <li>講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくことが全員に義務づけられる。</li> <li>本年度、「人間関係論」を履修することが義務づけられる。</li> </ul>
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて毎回事前に配布するプリントが、教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 カント『道徳形而上学の基礎づけ』光文社古典新訳文庫
成績評価の方法	<p>授業時に毎回提出してもらいリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日10:40～12:10 木曜日10:40～12:10</p> <p>事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。</p>

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。解決することはいかなるかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	人間のふるまいへの問いの次元(3)： 自由の諸相
第3回	人間のふるまいへの問いの次元(1)： 功利主義と経済活動	第19回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(1)： デカルトの人間観
第4回	人間のふるまいへの問いの次元(2)： 行為の問題がなぜ生ずるのか	第20回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(2)： カントの意志の自由について
第5回	よく生きるとは：ソクラテスの人間観	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	善のアイデアとは：プラトンの人間観	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	幸福と中庸の徳とは：アリストテレスの人間観	第23回	人間が考える「幸福観」とは： カントの著作を読む(1)
第8回	人間のふるまいを考える： サンデルの著作を読む(1)	第24回	人間が考える「幸福観」とは： カントの著作を読む(2)
第9回	人間のふるまいを考える： サンデルの著作を読む(2)	第25回	人間が考える「幸福観」とは： カントの著作を読む(3)
第10回	人間のふるまいを考える： サンデルの著作を読む(3)	第26回	人間が考える「幸福観」とは： カントの著作を読む(4)
第11回	人間のふるまいを考える： サンデルの著作を読む(4)	第27回	功利主義の思想について(1)： 「最大多数の最大幸福」という考え方について
第12回	人間のふるまいを考える： サンデルの著作を読む(5)	第28回	功利主義の思想について(2)： 社会的自由について
第13回	人間の幸福観に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ： 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ（レポート執筆の準備）： 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ： 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（表現文化ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリス等の文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、多文化世界を生きる基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然や文化財の保全、文化観光、国内外の文学等をテーマにした研究を行い、論述や口頭で発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 昨年度、表現文化ゼミナールⅠを履修し、単位を修得していること。または「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「世界文学としての日本文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得していること。 ② <u>前期の履修登録期間中（体験ゼミナール1回目・2回目、もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は単位を認定できません）。</u> ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	ポータルサイトに掲載するか、授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年）青木 保『異文化理解』『多文化世界』（岩波新書 2001年・2003年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい」とは、ガンジーの言葉です。ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。グローバル化の進む現代においては、よりいっそう多文化共生や個人の文化的背景の尊重が求められています。互いの文化を良く理解し、認め合うことは、平和への第一歩とも言えるのです。</p>
------------------------------	--

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	ヨーロッパの歴史・文化と世界遺産
第2回	ユネスコの目指す世界平和と世界遺産	第18回	キリスト教と世界遺産
第3回	絶景でめぐる世界遺産の旅	第19回	ルネサンスと大航海時代
第4回	世界遺産とエジプトの歴史・文化	第20回	イギリスの歴史と文化 I
第5回	世界遺産と仏教文化	第21回	イギリスの歴史と文化 II
第6回	アジアにおける世界遺産	第22回	近代化、グローバル化と世界遺産
第7回	世界遺産と日本の自然・文化	第23回	多様性の擁護と自文化中心主義
第8回	文化財の保全と観光振興	第24回	異文化を理解するには
第9回	研究の基礎 I – 文献調査と文献講読 –	第25回	多文化世界と宗教・民族の対立
第10回	アカデミック・ライティングのポイント	第26回	ジェンダーと多文化共生
第11回	ディベートの方法と実践	第27回	研究の基礎 II – 論文講読と論述 –
第12回	パワーポイント作成の技術	第28回	研究の基礎 III – 論文作法とは –
第13回	プレゼンテーションの技術 I	第29回	プレゼンテーションの技術 II
第14回	プレゼンテーションの実践 I	第30回	プレゼンテーションの実践 II
第15回	キャリア・プランニング I	第31回	キャリア・プランニング II
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ		
	ゼミ担当者名	花田富二夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	自分の興味ある領域に関する研究調査を通じて、共同研究ならびにパワーポイント発表を行う。
ゼミの到達目標	自ら課題を設定し、資料収集ならびにそれらを用いての論文等の制作を行えたか。
ゼミの概要	前期はデータの読み取りの練習とともにパワーポイントの作成を行う。後期は、班別テーマを設定し、論文あるいは作品制作を目指す。最終的には発表会を行う。
授業時間外の学習	文章の要点をまとめたり、文章の構成について分析的に考えたりする習慣を、常時、身につけておいて欲しい。
履修条件	特になし。
テキスト	新書版より選択する。一例、『「日本」ってどんな国?』ちくまプリマー新書(920円)、『今こそ学びたい日本のこと』学研プラス(1760円)など。
参考文献・資料	授業時に指示する。
成績評価の方法	<p>授業への参加状況(報告、質疑応答など)及び授業時の提出課題を重視する。これらを総合評価して換算する。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	水曜日5限目
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	遅刻・欠課は必ず連絡できる責任感と積極的に授業に取り組む真摯な態度を持ってもらいたい。

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	文章基礎演習	第18回	自由課題テーマに関する面談（1）
第3回	データを読み取る演習（1）	第19回	自由課題テーマに関する面談（2）
第4回	データを読み取る演習（2）	第20回	自由課題テーマに関する資料収集（1）
第5回	データを読み取る演習（3）	第21回	自由課題テーマに関する資料収集（2）
第6回	データを読み取る演習（4）	第22回	自由課題テーマに関する概要作成面談
第7回	問題解決の進め方演習	第23回	自由課題テーマに関する概要作成（1）
第8回	テキスト分析とまとめ（1）	第24回	自由課題テーマに関する概要作成（2）
第9回	テキスト分析とまとめ（2）	第25回	自由課題テーマに関する調査と研究（1）
第10回	テキスト分析とまとめーパワーポイント作成（1）	第26回	自由課題テーマに関する調査と研究（2）
第11回	テキスト分析とまとめーパワーポイント作成（2）	第27回	自由課題テーマに関する調査と研究（3）
第12回	テキスト分析とまとめーパワーポイント作成（3）	第28回	自由課題テーマに関する調査と研究（4）
第13回	パワーポイント発表会（1）	第29回	自由課題テーマに関する発表会（1）
第14回	パワーポイント発表会（2）	第30回	自由課題テーマに関する発表会（2）
第15回	パワーポイント発表会（3）	第31回	自由課題テーマに関する発表会（3）
第16回	定期試験 レポート提出	第32回	定期試験 自由課題に関する論述文の提出

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を探りその実態を明確にする。3年次は大きな問題点を個別に掘り下げる。
ゼミの到達目標	日本経済の主要な問題点である、公的社会保障問題、マイナス金利まで踏みこんだ金融政策の収束方法という金融政策問題、そして日本の国家財政の3点に絞って深く学びます。
ゼミの概要	3年次ということで、上記の2点について深く学ぶため輪読と意見発表の展開で進めます。3点についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論をして下さい。また、この1年で自分の研究テーマを絞って下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞を読む習慣をつけること（ゼミの最初に、その日の記事について質問します）
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、生活経済学、経済成長論の単位を取得済みかまたは同時履修すること。
テキスト	予定「日本が先進国から脱落する日」野口悠紀雄プレジデント社 「日本銀行 我が国に迫る危機」河村小百合 講談社新書
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 「マイナス金利」徳勝玲子 東洋経済新報社 日本経済と財政危機の本質シリーズ7「社会保障の構造問題－健康保険と医療保険の実態」深澤泰郎、 同シリーズ11「高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表と討論（70%）、年間レポート（30%）
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>企業の株価と日本経済は別のものです。株価が最高値を付けたとしても、日本の将来については、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで、自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。</p> <p>また卒論は日本経済に関するテーマであれば、自由としたいと思います。教員と相談してください。<b>国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。</b></p> <p>※受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析（相関関係等）、グラフ作成を行う場合があります。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について (研究倫理教育) 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	日本の税制と社会保障	第18回	効果なしと分かっていた量的緩和をなぜ繰り返したのか?
第3回	消費税の構造と課題	第19回	弊害の大きいマイナス金利と長期金利操作
第4回	個人所得課税への期待と限界	第20回	物価上昇率目標は達成できず
第5回	年金財政 世代交代の視点と年金財政改革	第21回	消費を増加させず、格差が拡大(1) 賃金
第6回	年金制度	第22回	消費を増加させず、格差が拡大(2) 円安
第7回	健康保険財政との構造と高齢者医療制度	第23回	世界は金融緩和と政策からの脱却を目指したが.....
第8回	国民皆保険の現状と改革の指針	第24回	出口に立ちふさがる深刻な障害(1) 日銀の状況
第9回	給付付き税額控除の可能性と課題	第25回	出口に立ちふさがる深刻な障害(2) マクロ経済
第10回	2019年度の公的年金の財政検証について	第26回	ひそかに進む金融・経済の浸食
第11回	社会保険の構造問題 健康保険と医療財政の実態	第27回	ジャパンプレミアムが映す日本経済
第12回	高齢者ポピュリズムに侵された国、日本!	第28回	第17回~第25回のまとめとレポート作成
第13回	第2回~第12回のまとめとレポート作成	第29回	レポート作成
第14回	レポート作成	第30回	レポート作成発表と討論
第15回	レポート発表と討論	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（ビジネス・企業ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	道端忠孝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	ビジネス・企業を多方面から考察して明らかにする。特に、就職先としての企業組織の違いや企業の展開するビジネスの概要が分かるようにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社企業や、会社以外の企業の特徴などを理解できること。 将来就職する会社などの企業やビジネスの実体を理解できるようになること。
ゼミの概要	ビジネス・企業を全体的に考察し、特に、商人としての会社企業やビジネスの実体を明らかにしたい。ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として仕上げ、報告をしてもらいます。ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1、ゼミナール開始前に資料の該当箇所目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1・5時間程度) 2、ゼミナール開始前に復習をし、ノート整理しておいてください。(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に目を通し、会社企業やビジネスに関する記事を切り抜き又はメモをしておいてください。(0・5時間程度)
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	授業で適宜紹介します。
成績評価の方法	・レポート報告(60%)・レポート提出(40%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30～16:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ビジネスのことや企業のことを理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	ビジネス・企業ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）、研究倫理教育	第17回	株式会社の設立－合同会社と対比して－
第2回	金融業、銀行・信用金庫・信用組合はどう違う！	第18回	株式って！株価は！
第3回	貸金業や銀行などとはどう違う。秋田県信用保証協会ってどんなところ。	第19回	新株予約権って！
第4回	保険業、生命保険と損害保険はどう違うの！給与が高いのはなぜ？	第20回	株主総会
第5回	JA 共済や秋田県民共済は保険会社とどう違うの！	第21回	取締役会
第6回	JA やcoop は「組合」とあるが、どういう組織なの？	第22回	監査役・監査役会
第7回	ナイスやマルダイなどのスーパーと生協（coop）はどう違うの！	第23回	監査役会設置会社－イオンリテール(株)－
第8回	ホテル・旅館、国際観光ホテル・旅館はどうちがうの？なぜサービス料10%、消費税10%？	第24回	監査等委員会設置会社－秋田・北都・荘内・山形・青森・みちのく・岩手・東北銀行など
第9回	自動車販売会社にもいろいろ；トヨタ、日産、スバル、マツダ、三菱、ダイハツ、いすゞ	第25回	指名委員会等設置会社－北都銀行・荘内銀行の親会社＝フィデアホールディングス(株)や、イオン(株)
第10回	不動産会社、住宅販売会社、建設業の関係！	第26回	各自の選んだ会社・企業の運営は！
第11回	商工会、商工会議所の実態はどうなっているの！	第27回	北都銀行が合併するって！組織再編って！
第12回	個人企業と会社の違い、会社の種類と違い	第28回	会社分割、株式移転、株式交換のポイント
第13回	株式会社と合同会社の違い	第29回	レポートの作成（私の選らんだ企業）
第14回	1円株式会社って！	第30回	パワーポイントの作成①（私の選らんだ企業）
第15回	株主有限責任というが、本当！社長の連帯保証って！法人格否認って、	第31回	パワーポイントの作成②（私の選らんだ企業）
第16回	定期試験（レポート中間報告）	第32回	定期試験（レポート提出・報告）

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (憲法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	渡部 毅		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	憲法の人権保障論を中心にして、判例・学説の検討を行い、それぞれの人権条項の趣旨や目的、違憲審査基準に関する理解を深め、憲法的思考力を高める。
ゼミの到達目標	憲法判例の分析を通じて、憲法の人権保障の基本的な考え方を理解し、説明できる。
ゼミの概要	ゼミでは、各自が担当する判例を割り当てる。担当者は、担当判例について、事実の概要、判決内容、判決の検討を記したレジュメを予め作成してもらい、それに基づいて報告し、質疑応答するという形式で討論を行う。なお、受講者数が少人数の場合や受講者の関心事等の観点、あるいは学事暦等の事情から、受講者と相談の上、公務員試験その他各種試験の問題演習を行うことなどをあわせて実施することがある。また、4年次になると卒業試験に代わるプレゼンテーションを各人が行うことが求められるので、それに対するテーマ設定の相談や指導もあわせて行う。
授業時間外の学習	他の報告者が担当する判例についても、あらかじめ、事実の概要、判旨等を予習する(2時間)。報告後に、ゼミの議論を踏まえて、内容の確認を行う(2時間)。
履修条件	このゼミナールの履修者は、「統治機構」や「人権」を履修済みであることが望ましい。
テキスト	各自が使用している憲法の教科書・判例集
参考文献・資料	定評のある基本書を参考にしてください。ゼミにおいても、適宜、紹介します。
成績評価の方法	レポーターとしての報告内容(40%)、参加態度(40%)、定期試験20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 15:00~16:00 木曜日 15:00~16:00
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	憲法判例の学習を通じて、憲法的思考を伸ばしていきましょう。なお、履修する者は毎回の出席が義務付けられます。また、履修には毎回合計4時間の学修時間を要します。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育 導入講義	第17回	後期ガイダンス
第2回	外国人の人権 マクリーン事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第18回	思想・良心の自由 謝罪広告強制事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第3回	外国人の人権 外国人地方参政権訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析	第19回	思想・良心の自由 麹町中学校内申書事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第4回	法人の人権 八幡製鉄事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第20回	信教の自由と政教分離 剣道拒否事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第5回	法人の人権 群馬司法書士事件および南九州税理士事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第21回	信教の自由と政教分離 津地鎮祭事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第6回	公務員の政治活動の自由 堀越事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第22回	信教の自由と政教分離 自衛官合祀訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析
第7回	人権の私人間効力 三菱樹脂事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第23回	表現の自由 税関検査事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第8回	人権の私人間効力 昭和女子大事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第24回	表現の自由 屋外広告物条例事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第9回	人権の私人間効力 日産自動車事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第25回	営業の自由 薬局距離制限事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第10回	プライバシーの権利 宴のあと事件の東京地裁判決の分析	第26回	営業の自由 小売市場距離制限事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第11回	プライバシーの権利 早大講演会名簿提出事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第27回	財産権 農地改革事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第12回	自己決定権 エホバの証人輸血拒否事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第28回	財産権 河川附近地制限令事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第13回	自己決定権 校則によるバイク制限事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第29回	財産権 森林法違憲訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析
第14回	法の下の平等 嫡出の有無による法定相続分差別事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第30回	法定手続の保障 成田新法事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第15回	法の下の平等 国籍法非嫡出子差別規定違憲訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析	第31回	生存権 生活保護老齢加算廃止訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析
第16回	定期試験	第32回	定期試験